

地球環境保全に関する生活者の意識調査研究

九州大学 工学部 学生員 ○奥野 幹夫 大平 晃司
九州大学 工学部 正 員 二渡 了 井村 秀文

1. はじめに

地球的規模の環境問題への関心が高まっている。しかし、生活者としての我々の消費行動に目を向けると、意識とはうらはらにエネルギーを無駄に使用するなど、環境に負担をかける行動を多く取っている。例えば、使い捨て製品の氾濫、過剰包装、製品の大型化等である。最近、地球温暖化問題を契機にエネルギー消費の抑制が叫ばれている。家庭における直接的、間接的エネルギー消費量はエネルギー消費全体のかかなりの部分を占めており、家庭での消費エネルギーを削減することは、地球環境保全にとって重要な意味を持つ。ここで大きな問題になるのが、意識と行動との乖離である。その背景には一体何があるのか、また何が節約行動の妨げになっているのかを分析する必要がある。このため本報告では、福岡市民を対象に、生活者の消費実態及び意識を調査し、エネルギー消費の削減のために必要な条件について考察する。

2. 調査概要

調査対象、方法を表1に、調査項目を表2に示す。対象は住民基本台帳より人口構成比率に合わせて抽出した。調査項目は、生活者の立場から地球環境保全に対しどの程度責任を感じているか、

どのような役割を果たすべきと考えているか等を問うのもので、質問数は全44問とした。回収状況を表3に示す。回収率では女性の方が男性よりやや高く、全体で39.1%であった。また、若年層の回収率は低く、年令が高くなるにしたがって回収率も高くなった。

3. 調査結果及び考察

1) 環境問題に対する関心度及び認識

環境問題の重要性に関する認識を図1に示す。これを見ると、全体で70%程の人が環境問題の重要性を感じている。どのような環境問題に関心があるかを図2に示す。「オゾン層破壊」や「ゴミ問題・資源リサイクル」といった問題の関心が高い。男性は「オゾン層破壊」や「地球の温暖化」といった地球的規模の環境問題に関心が高く、女性は「ゴミ問題・資源リサイクル」や「身近な自然の減少」といった身の回りの問題への関心が高い。このように、男女間で関心の対象がいくらか異なっている。

2) 生活の利便性と地球環境保全の関係

生活の利便性と地球環境保全の関係を図3に示す。いずれの年代においても、「環境保全を優先すべき」とする人が多い。また、生活の利便性と生活水準についての意識の関係を示した図4から、「環境保全を優先」とする大部分の人が「生活水準の後退は仕方がない」と答えていることがわかる。

3) エネルギーの節約行動

エネルギー節約の実行状況を図5に示す。エネルギー節約のために何らかの行動を実行している人は全体の半数にも満たない。特に20代、30代の男性率が低い。意識は持っていない人も実行していない人も多くいることも数字に現われている。以上から、地球環境問題への意識は高いものの、実行に移れないでいるのがわかる。

4) 環境保全行動に対する障害

意識と実行の関係を図6に示す。意識を持っはいるものの実行に移せない人の多くが、「何をすればいいのかわか

表1 調査の概要

調査対象	福岡市民20歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳から2,000人を無作為に抽出
質問形式	回答選択式質問表
調査方法	郵送式
調査期間	平成4年12月10日～24日

表3 回収結果

	回答数(人)	回収率(%)
男	344	35.0
女	426	42.9
計	772*	39.1

(* 性別不明2人を含む)

表2 調査項目

0.回答者の属性
1.地球環境問題に対する関心度及び認識
2.地球温暖化問題に対する関心度及び認識
3.生活の利便性と環境保全の関係についての意識
4.生活と環境負荷の関連に対する認識
5.消費行動の実態
6.エネルギー価格に対する関心度
7.価格と消費行動の関係、価格による消費行動変化の可能性
8.暮らしにおける環境保全的な行動の実態、改善方法
9.環境保全と技術の関係についての認識
10.環境保全に果たすべき生活者の役割についての認識

問：最近、新聞やテレビでよく取り上げられる地球環境問題の重要性についてどう感じていますか。

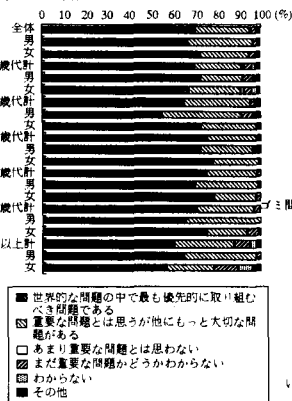


図1 環境問題の重要性

問：いろいろな環境問題の中で、あなたにとって関心のあるものはどれですか。(3つまで選択)

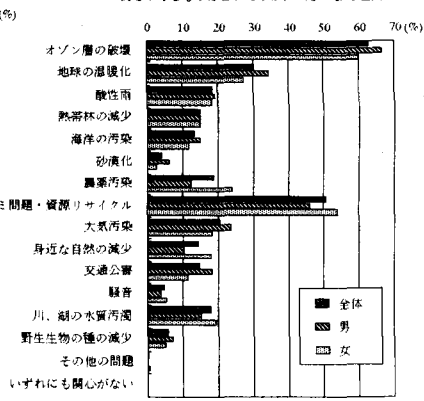


図2 主な環境問題の関心度

らない」と答えているのが目立つ。エネルギー節約を実行できない理由の一つに、環境問題に対する知識・情報の不足があげられる。また、経済的動機の問題が考えられる。このため、価格と節約の関係をみてみる。エアコンとテレビについてそれらの使用と価格（電気料金）の関係を図7に示す。テレビよりエアコンの方が節約意識が強い。また、エアコンではすでに節約に心がけている人も多く、これは消費電力量（料金）と関係があると思われる。しかし、価格による経済的動機だけでエネルギー消費を削減できるかどうかには疑問がある。料金に対する関心と無駄使いの関係を図8に示す。料金に関心があり料金を知っている人、つまり高いと思っている人も無駄使いをしている。つまり、表向き高いと言いつつ、無駄使いをしており、現在の価格は行動変化を促すインセンティブとしてはまだ不十分と思われる。

家庭における消費エネルギーの削減には、環境教育の充実、環境問題に対する情報量の増加、環境税の導入などが考えられる。家庭における実際のエネルギー消費量については、今回の調査だけでは十分把握できず、今後詳しく調べる必要がある。

最後に、ご協力いただいた福岡市環境局環境保全部の方々にお礼を申し上げます。また、本研究は、文部省科学研究費重点領域研究（高度技術社会）及び日本生命財団による援助を受けて行なったものであり、ここに謝意を表します。

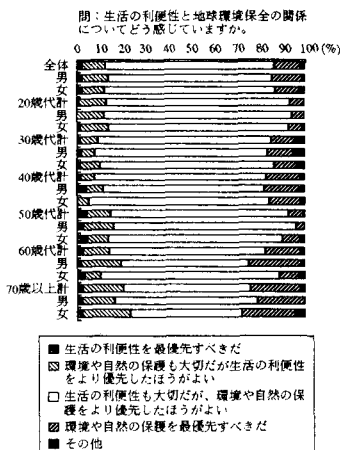


図3 生活の利便性と環境保全

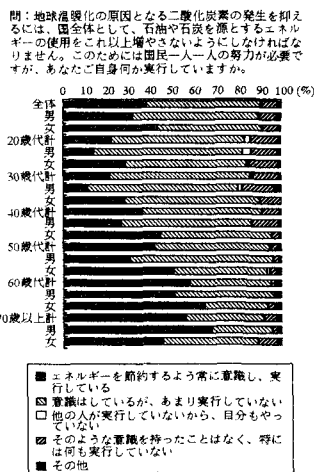


図5 エネルギーの節約

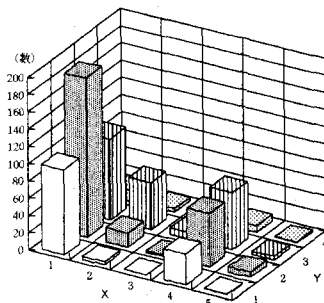


図7 電気器具の使用と料金の関係

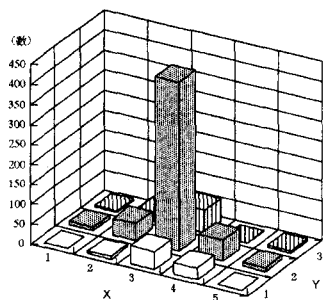


図4 生活の利便性と生活水準

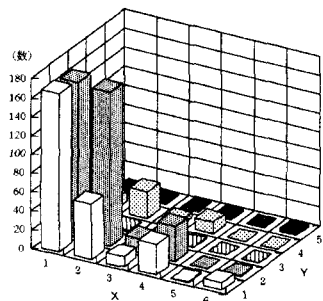


図6 意識と実行の関係

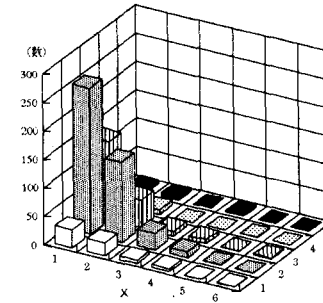


図8 料金に対する関心と使用の関係